

岡本かの子生誕130年を迎えて

今年は、現在の高津区内、二子の地で育ち、本市と深い関わりのある作家、岡本かの子の生誕130年の年にあたります。この節目の年に、川崎市立図書館では、かの子を取り上げた行事を開催しています。

特別ミニ講演「岡本かの子と太郎 『生々流転』と多摩川」

岡本太郎美術館の協力のもと、5月26日（日）午後には中原図書館で開催しました。

当日は、学芸員佐藤玲子さんを講師としてお招きし、当時の写真画像とともに、かの子にまつわるエピソードや作品などについてお話しいただき、ご参加いただいた28名の方々も熱心な様子で聞き入っていました。



ミニ講演の様子

企画展示「岡本かの子の文学」

かの子の文学が生まれるまでの背景やその文学に焦点を当てた企画展を開催しています。



中原図書館の展示の様子

写真や関連年表などでかの子の生涯を辿ります。

川崎市立図書館（分館・閲覧所を除く）各館を巡回しており、今後の開催館と期間は次のとおりです。ご来館の際にはぜひご覧ください。

- ・幸図書館：11月23日（土・祝）～12月15日（日）
- ・多摩図書館：令和2年1月25日（土）～2月2日（日）

※川崎図書館、中原図書館、高津図書館、宮前図書館、麻生図書館における展示は終了しました。

第39回

このコーナーでは、川崎をもっとよく知り、もっと楽しむための本を紹介しています。今回は、生誕130年を迎えた岡本かの子に焦点をあてました。



『金魚撩乱』

岡本かの子／著 川崎市市民ミュージアム 平成8年（1996年）

「無意識にのびのびと、美しさと美の生活を成長させて行く女に、衷心愛着を感じつつ、一種の位負けから、男は振れて行く。男は女に対する愛執と競争心から、その女以上の美を創造しようと生涯を賭ける。」とかかの子自身が自作案内している作品です。作者の浪漫的な美意識が表れた作品です。



金魚撩乱
岡本かの子
川崎市市民ミュージアム



岡本かの子全集2
岡本かの子
筑摩書房

『鶴は病みき』（『岡本かの子全集2』より）

岡本かの子／著 筑摩書房 平成6年（1994年）

作者の母性的な純真さとモデルに対する深い愛惜が描かれた作品です。第六回文学界賞受賞。

かの子の文壇デビュー作で、モデルは実際に交流のあった芥川龍之介とされています。

『老妓抄 改版』

岡本かの子／著 新潮社 平成16年（2004年）

発明を志す青年と生活を共にすることにした老妓の生の豊饒への憧れと虚無。作者の文壇での評価を不動のものにした名作です。昭和十三年下半期芥川賞候補。

『家霊』（『岡本かの子全集5』より）

岡本かの子／著 筑摩書房 平成5年（1993年）

「宿命に忍従しようとする不安で逞しい勇気と、救いを信ずる寂しく敬虔な気持ちとが、その後のくめ子の胸の中を朝夕に纏れ合う」江戸情緒を残す明治・大正の時代を映す作品です。



岡本かの子全集5
岡本かの子
筑摩書房



老妓抄
岡本かの子
新潮文庫刊